

専念寺通信

専念寺通信

四月号 (NO. 80)

例年よりずっと早く春がやって来ました。お彼岸の頃に気温がさがり、そしてそのあと、どんどん暖かくなり「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通りの天候の移り変わりとなりました。専念寺のしだれ桜も、いつもより早く、4月1日で、ご覧のように花が開きました。『通信』4月号をお届けします。

☆春の彼岸

今年のお彼岸は、前半は風がとても強く吹き、寒い日が続きました。お中日を過ぎてから、気温があがり、日差しのくっきりした、空のきれいな春らしい日になりました。入りの日から最後の24日まで、お参りくださった檀家さまは265件にのぼりました。ご家族そろってお参りになり「12人で来ました。」と話すかた、親子でおいでの檀家さまで、母上が92歳、とてもお元気で、白髪あたまのご息子さんを指さし、「だんだん歳がちかづいてきちゃったのよ!」と私共を笑わせてくださいました。ご高齢の檀家さまが、いつもと同じ笑みで大玄関に来てくださると、私共のうれしさも本当にひとしおです。かと思うと、ついこのあいだまでよちよち歩いていたお子さんが、この春から小学生になられる、おめでただったお嫁さんに赤ちゃんがうまれる、などなど、毎年、お盆やお彼岸には必ずお目にかかっているのに、そんな変化のいくつかに驚かされたりも致しました。書院でゆっくりとおしゃべりをしていらしたり、ご兄弟で、専念寺を待ち合わせ場所にしたりする檀家さまもいらして、いつもと変わらぬ、おだやかでなごやかな時間を、私共も一緒に過ごさせていただきました。

そして、彼岸明けの25日の朝、墓地を歩きますと、色とりどりの花が一面に朝日にかがやいて、夢のような光景でした。一週間のあいだに少しずつ

増えた供花がせいぞろいをして、足を踏み入れた私共を迎えてくれました。みなさまの、亡くなられたお身内を思う気持ちが、それぞれの花束にこめられていることがわかるため、花はよりいっそう美しくみえます。みなさまの熱心なお気持ち、信心に支えられ、これからも私共は、法灯の護持につとめさせていただきたいと思えます。

☆ちいさなお知らせ: 今年は櫛(しきみ)がご用意できませんでした。気候の関係で今年はよいものがとれず、櫛屋さんから届けてもらうことができませんでした。お施餓鬼、秋のお彼岸には入手できるよう、次回からは早めに準備させていただきます。間に合わず、申し訳ありませんでした。

☆もうひとつちいさなお知らせ: 使用済みの切手・テレフォン・カードをお

彼岸中にたくさん頂戴しました。早速、

「日本キリスト教海外医療協力会」に送りました。お礼状を頂きましたので玄関の切手箱の前に張っておきます。なお、テレフォン・カードは3月末で収集を終えるとのこと、今後は切手のみの寄付となりました。よろしくお願ひ致します。季節のかわりめ、そして花粉症の全盛期、皆様おたいせつに。

平成19年4月1日

大黒

